

追手門学院大学創立 50 周年記念事業 第 3 回
国際シンポジウム

先住民族と格差
—オーストラリアと日本の政策を比較して—

実施報告書

2015 年 12 月 10 日
追手門学院大学 オーストラリア・アジア研究所

1. 開催趣旨・目的

オーストラリアでは先住民族が社会的経済的に弱い立場にたたされ、教育、雇用、保健医療の各分野においても様々な格差が生じている。近年これらの問題を解決するためにオーストラリア政府は連邦レベルでの政策を立ち上げ積極的に格差是正に取り組んでいる。一方、日本ではアイヌ民族と多数派日本人との間に従来から社会経済分野において格差が存在し問題とされてきた。このような格差を解消するため、日本ではどのような政策が今後必要とされているのか。本シンポジウムでは豪日の研究者による学際的なアプローチを通じオーストラリアと日本における先住民族の現状と格差是正政策の現状をその歴史的背景も含めて分析する。

2. 実施概要

(1) 日時：2015年12月5日（土）、13:00～17:00（開場12:30）

(2) 会場：追手門学院大学 5号館8階 大会議室

(3) 参加者数：31人（主催者側13人、来場者18人）

(4) 主催：追手門学院大学 オーストラリア・アジア研究所
後援：オーストラリア学会

(5) プログラム：

13:00 - 13:05 開会の挨拶

重松 伸司 教授（追手門学院大学 オーストラリア・アジア研究所所長）
司会：川口 章 教授（同志社大学政策学部）

13:05 - 13:55 「オーストラリア先住民族の経済的地位と現在の政策対応」

報告者：Anne Daly 教授（キャンベラ大学経済学部）

13:55 - 14:05 質問タイム

14:05 - 14:55 「オーストラリアにおけるアボリジニ政策に関する歴史的視点」

報告者：Maria Nugent 教授（東京大学アメリカ太平洋地域研究センター・オーストラリア研究客員教授）

14:55 - 15:05 質問タイム

15:05 - 15:20 休憩

15:20 - 15:45 「アイヌと日本の先住民族政策—格差問題を中心に」

報告者：宮崎 紗織（大阪大学大学院 国際公共政策研究科 博士後期課程、追手門学院大学オーストラリア・アジア研究所特任助教）

15:45 - 15:50 質問タイム

15:50 - 16:15 全体のコメント—オーストラリアと日本の先住民族政策を比較して—

コメンテーター：鎌田 真弓 教授（名古屋商科大学経済学部）

16:15 - 16:45 パネルディスカッション

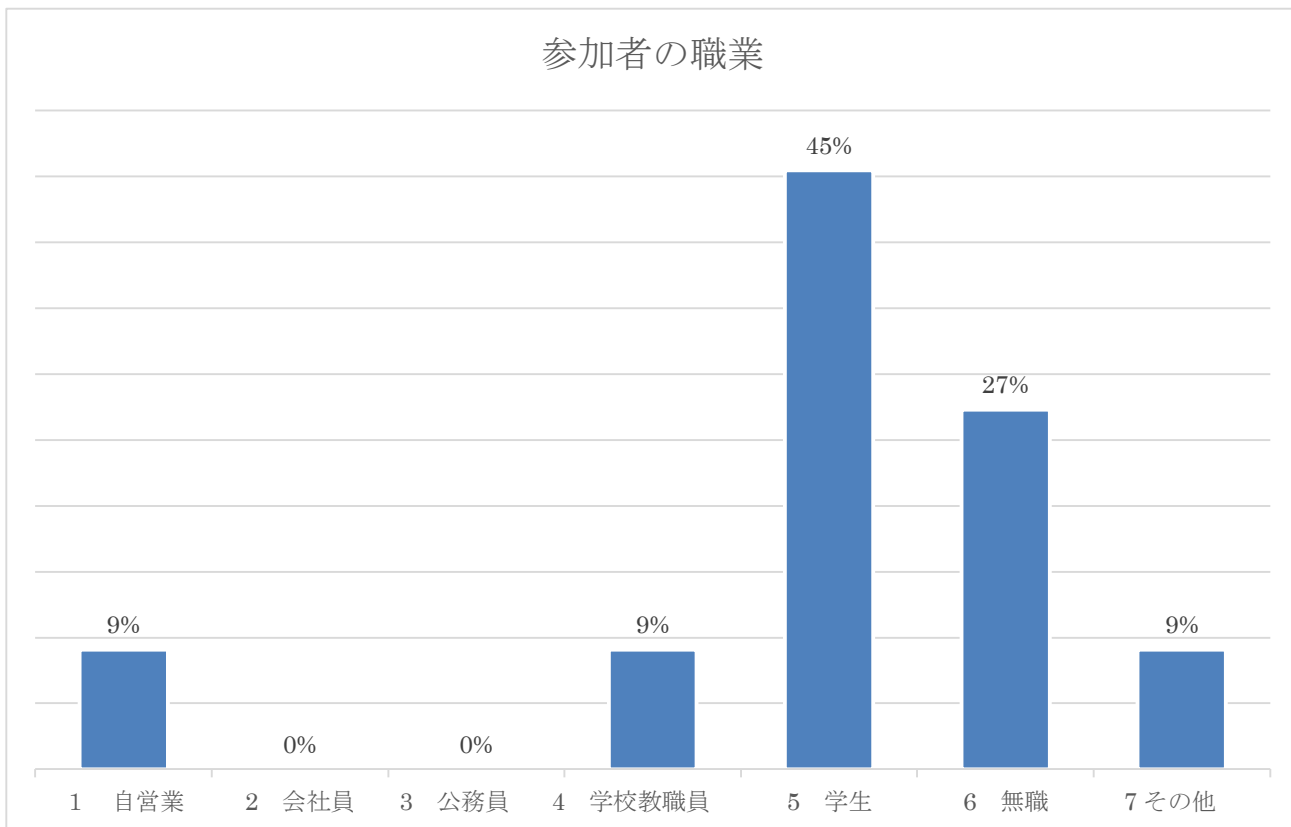
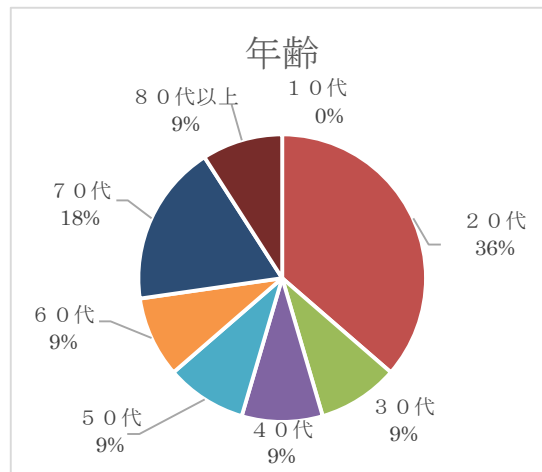
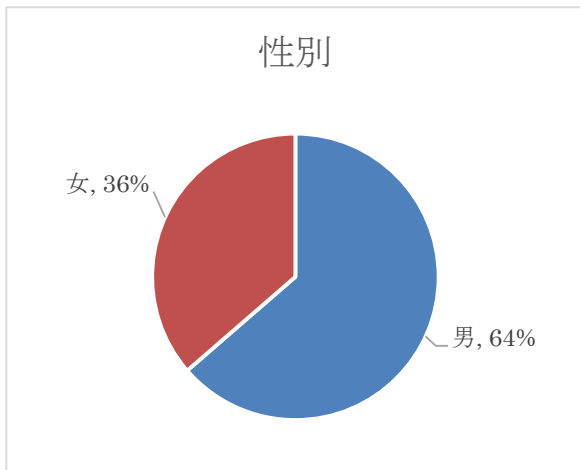
16:45 閉会の挨拶

(6) 使用言語：日本語、英語

3. 来場者アンケート結果

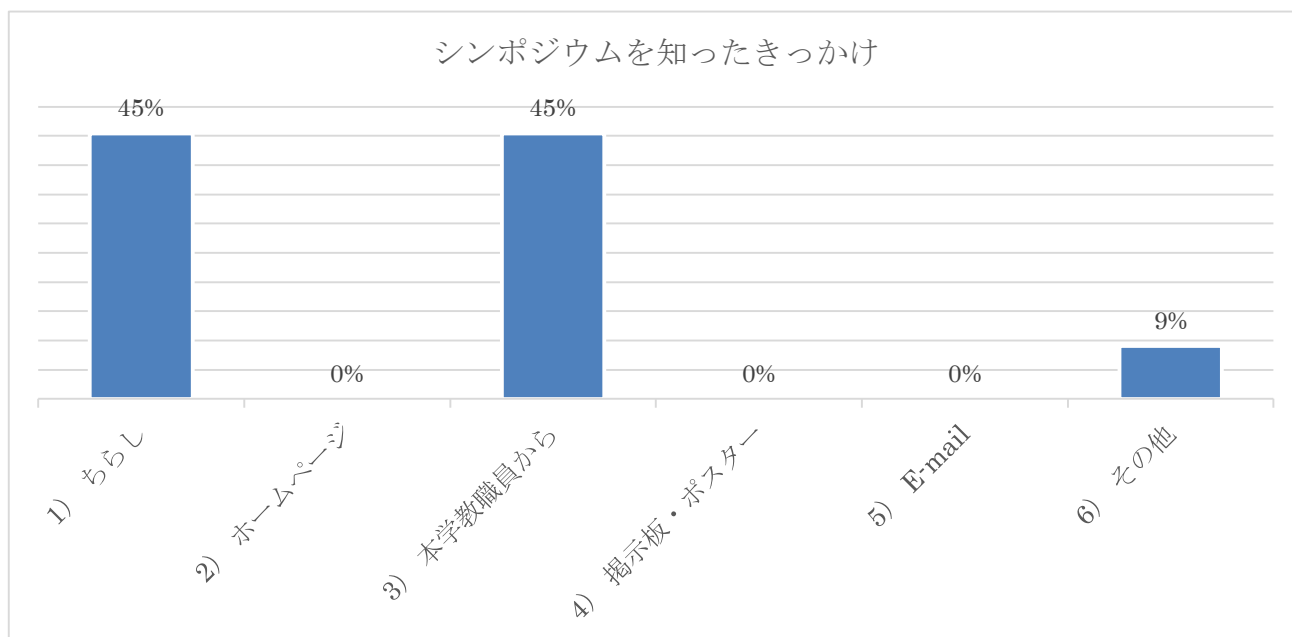
- (1) 回答者数 11名
- (2) 実施方法 会場配布、退場時に回集
- (3) 回答方法 記入式

(4) 回答者の性別、年齢、職業 (問3より集計)

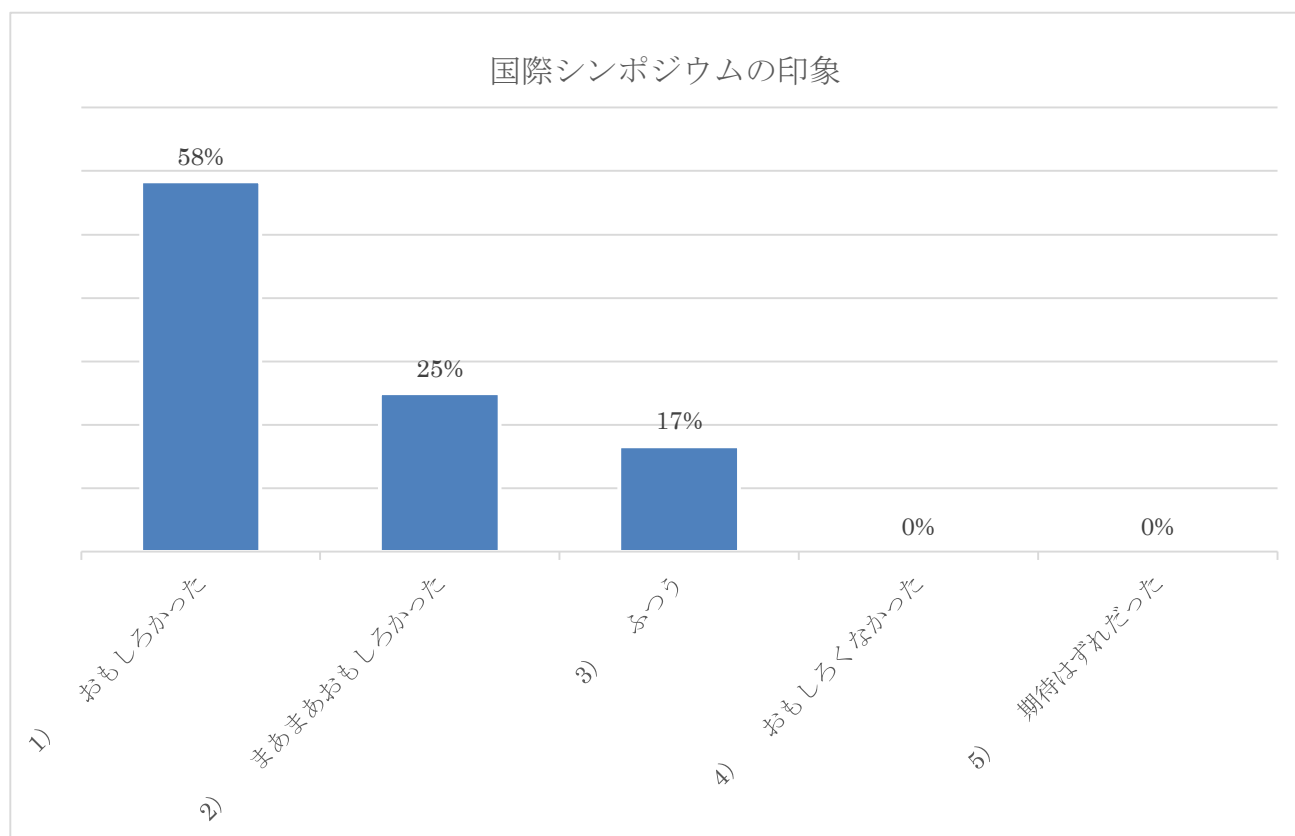


(5) 各質問への回答

問1 今回のシンポジウムをどこでお知りになりましたか。(複数回答可)



問2 今回の国際シンポジウムについてどのような印象を持たれましたか。



■ シンポジウムについての感想〈自由記入欄〉

- ・大変勉強になりました。パネルディスカッションの時間が短くて残念です。(20代男性)
- ・オーストラリア先住民の経済的劣位とそれに対する政策についてよくわかった。政策が思うような成果をあげない現状をどう受け止め、どのように対応していくか、改めて考えさせられた。答えの出ない問題だが、だからこそ彼らの生活に目を向け、彼らの語りに耳をかたむけながら真摯に考え続ける姿勢が求められると思う。(30代女性)
- ・発言者の発言は、はやりむずかしくてなかなか聞き取りにくかったですが、アボリジニの人々の文化を大切にしようという方向性は理解できたように思います。(60代男性)
- ・通訳さんの日本語が複雑でわかりにくかった。(20代男性)
- ・通訳があったので、英語と日本語の2回で議論を考える時間と余裕が持てたことがよかったです。空調が寒く感じました。(40代男性)
- ・アボリジニ：歴史に時間を取りすぎたが、もっと実例を取り入れた説明があればより理解が深まったのではないかと思う。
アイヌ：アボリジニとの対比で、類似点・問題点のポイントがよく分かった。
鎌田先生：アボリジニとアイヌの二点から指摘され、解決のヒント・方向がよくまとめられていたと思う。(70代男性)

問4 今後、当研究所で開催してほしいテーマ・講師等をお聞かせください。〈自由記入欄〉

- ・受講者が思ったより少なかったが、次回会場を梅田に移し、内容を一般的なレベルにすれば、もっと社会人や学生の参加が見込まれるのではないかと思う。(70代男性)
- ・オーストラリアでのエンターテインメント文化の歴史的変遷と現状(60代男性)

以上